



どんな障がいがあっても、安心して地域で暮らしていけるようにしたい！  
障がいのある人への良き理解者を増やし、広げたい！

## 「札幌白石区 姉妹孤立死問題 わが街いしかりで共に考える集い」開かれる！！

去る3月29日、石狩市総合保健福祉センター「りんくる」において、P & Aいしかり設立準備会主催で「札幌白石区 姉妹孤立死問題わが街いしかりで共に考える集い」が24名の参加で開かれました。

集いの目的は「札幌市白石区での姉妹孤立死やこの間の一連の孤立死報道」を通して、

- ・この問題の経過を共に振り返りましょう。
- ・わが街石狩市でも身近に起きえる問題として考えてみましょう。
- ・こうした孤立死を二度と繰り返さない為に、何が必要か考えてみましょう。
- ・そして、今わたしたちが出来ることは何か。この街でみんなのできることは何か。共に考え合い、具体的な行動につなげていきましょう。

これらの事を確認する中で、

はじめに札幌市の姉妹孤立死に関する取材報道ビデオを上映しました。その後、資料に基づいて、東京都立川市母子孤立死、横浜母子孤立死などの一連の孤立死報道の説明とこの問題を通しての「行政の動き(道・市町村)」「行政とライフライン業者との検討会議」「当事者・家族会の動き」「地域・町内会での動きや取り組み」「福祉関係機関・事業所の動き」などを報道資料に基づいて振り返りました。札幌白石区姉妹の経過から、以下の点が上げられます。

- ・滝川市から札幌市への引越しにより、つながりや支援が途切れた
- ・相談事業所に相談するも連絡が途絶えた
- ・生活保護の相談を3回するも、途絶えた  
(保護課の聞き取りで知的障がいの妹がいることや生活困窮状況がわかっていたのに申請がないからと)  
(同じ区役所内の生活保護課と障がい支援課とはつながらなかった)
- ・個人情報保護ということが、つながることを途絶えさせた
- ・命に関わる電気、ガスが途切れた
- ・町内会・マンションの人たちとのつながりは無かった。

また、孤立ということには

「**情報からの孤立**」(・悩みを聴いてくれる人がいない  
・相談できる人がいない・利用できるサービスや制度を知らない)

「**遠慮や拒否による孤立**」(・家の中に入って欲しくない・迷惑をかけたくない・人の手を借りずに自分で頑張る・干渉しないで、そっとして欲しい)という問題があり、周りの私達が孤立を防ぐ為には「気づき」「つなぎ」「見守り」のしくみと協力の輪をどうつくるかということが大きなテーマとなります。

集いの後半は4グループに分かれ、それぞれで活発な討議が行われました。最後に全体報告では各グループで話し合われた内容が報告されました。地域で各事業者(配達や検針等の)やコンビニ、町内会等各分野の人たちが協力して、誰がどの様につながっていくか。また、障がいある子を育ててきた親が、良き相談者となっていくことの重要性等など、今後、継続して具体的活動につなげていく大きな機会となりました。

